

図書館で楽しむ 奇景・珍景

市民図書館には、たくさんの写真集を置いてあります。美しい風景、かわいい子どもや動物の写真集はもちろん、中にはびっくり、思わず笑ってしまうものもたくさんあります。もうすぐ終わる夏休み、ちょっと変わった写真集を図書館で楽しんでみませんか。



●『巨大仏!!』／中野俊成著（河出書房新社）

奈良の巨大仏の2倍以上ある全国の巨大仏16体を集めた写真集。住宅街の屋根の間から、ひょっこり顔をのぞかせる大仏には不思議な魅力があります。篠栗の南蔵院釈迦涅槃像も登場します。



●『ミニチュアライフ』／ミニチュアカレンダー編（水曜社）

表紙には森の中でピクニックを楽しむ人々…。実は、この森はブロッコリー、人間はジオラマ用人形です。トイレトペーパーのゲレンデでスキー、ミカンの皮のボートで舟遊び。日用品と人形の小さな驚きの世界を楽しめます。



●『それ行け!! 珍バイク』／ハンス・ケンプ著（グラフィック社）

人と物を山積みにし、縦横無尽にベトナムの町を走り回るバイクを激写した写真集。バイクに大型犬6頭を載せたお兄さんや、子ども用自転車を7台積んで走るおじさんなど、写真からユーモアと人々のたくましさを感じられます。



■問い合わせ先 市民図書館 ☎(37) 1321



陰ではこんな苦勞も（ぼうけんの森整備）



森の中の活動を楽しむ子どもたち

市子どもの権利救済委員が6月20日、「平成25年度宗像市子どもの権利救済・回復活動報告書」を谷井博美市長に提出しました。これは、平成25年4月に開設された、むなかた市子どもの権利相談室「ハッピークローバー」の1年間の活動をまとめたものです。

平成25年度の相談人数は67人、相談件数は119件でした。そのうち、子どもからの相談人数は46人で、約7割を占めます。市役所初のフリーダイヤルを通じて、多くの

子どもが安心して自分らしくいきいきと生活できるよう見守ってまいります。

■問い合わせ先
むなかた市子どもの権利相談室
「ハッピークローバー」
☎(36) 9094
☎0120(968)487



子どもの権利相談室の活動を報告

子どもの声が届けられたことが分かります。多かった相談は、交友関係、不登校、家族関係の悩みなどでした。相談事例では、権利救済委員と権利相談員が、子どもの気持ちに寄り添いながら、家族関係の調整に取り組んだ様子が示されています。



谷井市長に報告書を手渡す 子どもの権利代表救済委員の小坂昌司さん(右)

玄海地区コミュニティの居場所づくり事業は、平成24年に神湊地区「玄キッズ」をスタートと田島地区コミュニティを併せて誕生しました。1つになったコミュニティの象徴、将来の子どもたちの交流事業を実施したり、コミセンの裏づくりの一環として、子どもを支援する事業を推進しています。ボランティアのみなさんは「子どもたちが遊びを通じて、さまざまな能力を伸ばし、心豊かに育ってほしい」と願いを込めて活動に取り組んでいます。

子どもたちは、「ぼうけんの森」で段ボールを使って基地を作ったり、ソリやハンモックで遊んだり、竹で灯籠を作ったりと、毎回、思い思いに楽しんでいます。それを陰で支えているのが地域の大人たちです。子どもたちの笑顔を想像し、この季節は暑さや虫などたたかいたい、思いを込めて整備をしています。この「ぼうけんの森」が、子どもにとってだけでなく、地域の大人にとっても大切な「場所」になっています。

子ども基本条例は第6条で子どもたちの「豊かに育つ権利」を保障しなければなりません。実際に地域では、豊かな人間性や生きる力を育むために、さまざまな体験活動の機会や活躍の場を子どもたちに提供しています。今回は、玄海地区の取り組みを紹介します。

■問い合わせ先 子ども育成課 ☎(36) 1214



子どもたちは、「ぼうけんの森」で段ボールを使って基地を作ったり、ソリやハンモックで遊んだり、竹で灯籠を作ったりと、毎回、思い思いに楽しんでいます。それを陰で支えているのが地域の大人たちです。子どもたちの笑顔を想像し、この季節は暑さや虫などたたかいたい、思いを込めて整備をしています。